

粕谷和夫観察日記。小石川植物園の日本庭園には、池がいくつも配置されています。太郎稲荷の近く池付近でアカゲラ、シロハラを見付けました。池にはカワセミがいて、鋭い目つきで魚を狙っていました。

# 紅葉台



# 新聞

第112号

2024年

1月13日

発行人：関谷 孝

## 粕谷和夫の観察日記

### 鹿児島 出水で越冬するツルの観察

鹿児島県の出水に越冬中のツルの観察に行ってきました。今年の越冬羽数はいまだ公式発表はありませんが、今年も1万羽が来ているとのことでした。この写真はねぐらの



田んぼからの早朝の飛び出し時のものです。ナベヅルが多く、次いでマナヅル、クロヅル、ソデグロヅルもいて5種類のツルに出会いました。



出水の田んぼで餌をとるナベヅルです。ここ数年は1万羽以上の羽数が確認されているとのこと。これだけの数が人里近くで越冬するのは世界中でも出水平野だけといわれています。

出水の田んぼではツルのほかにカモ、ミヤマガラスなどの集団も越冬しています。先端がヘラのように幅広になっている細長いクチバシのヘラサギもいました。この写真は田んぼの用水路で採餌中のもので、くちばしを使って浅瀬で首を左右に振りながら採餌する姿がよく見られました。



ツルの集団越冬地の出水市には武家屋敷があります。その武家屋敷の中に石挽手打ち十割の蕎麦屋さんがあります。写真の上が店構えですが、どう見ても蕎麦屋さんには見えません。出水での野鳥観察の最後にここで美味しい蕎麦を食べた空港に向かいました。



高月の田んぼに今年もタヒバリが帰ってきました。10羽以上の集団で行動していて、田んぼで採餌と飛翔を繰り返していました。この日は、タヒバリより一回り大きいヒバリもいて、3羽が「ビュルビュル」と地鳴きと共に飛び立っていました。



シメという野鳥です。鳥に馴染みの少ない方は冬の公園にシメが来ていることに気が付いていないかもしれません。太めの体形で硬い実を食べるため太くて短くくちばしに特徴があります。このシメが青空をバックに葉の落ちた木のでっぺんに長い間じっと止まっていて、あくびのように大きな口を開けました。この姿が何となく滑稽に見えました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。



前日と同じシメです。こちらは、八王子片倉城址公園の二の丸広場の棕木。ムクの実を食べていました。

## シニアクラブ 歳わすれの会



12月19日(日)この日は朝から地域の大掃除がありました。毎年のことながら、皆さん総出で朝早くから、手際よく主に落ち葉掃きをしました。

午後からは、自治会館でシニアクラブ恒例の「歳忘れの会」がありました。物価高の中、役員さんが苦勞して食材を買ってきてくれました。寿司、豚汁(カップ入り)、お茶、おつまみお菓子など。もちろんお酒もあります。全員で29名が参加でした。(ちなみに年ではなく歳を忘れるという意味です。)

今年は、サークル活動をしている「ティンカーベル」の皆さんにハンドベルの演奏をしてもらいました。メンバーは、8名。子供たちが小学校6年の時に謝恩会で何か演奏しようということで結成しました。結成してもう30年ほどたちます。年末にふさわしい名曲「星に願いを」「イツ ア スモールワールド」世界が平和になりますようにとの願いを込めて。クリスマスにぴったりの「ジングルベル」「きよしこの夜」「メドレーで冬の朝・雪やこんこ・お正月」ハンドベルやクワイヤーチャイムを使っての演奏でした。楽譜もハンドベル用があるとのこと。ベル特有の爽やかな音色に冬の静けさを感じました。最後にアンコールでメドレー曲をみんなで歌いました。楽器はとても重くて運ぶのが大変です。それでも月に2回ほど集まって練習しています。「こうやっておしゃべりしたり演奏をしたりで友達が出来、人と触れ合えるのがいい」と話していました。今は、地域の「ツバメ文庫(月に一度自治会館で絵本など貸し出し、本の読み語り、モノづくりをしているサークルがあります)」のクリスマス会で毎年演奏をしています。

歳忘れの会は、12月の誕生会も兼ねていて、今回のプレゼントはシクラメンの花(紅白)でした。その後は、歓談しながらビンゴ大会。参加者がそれぞれでクリスマスプレゼントを持ち寄ったのでどんなものが当たるかも楽しみです。皆さんいつまでも元気で集い合えることが一番の幸せなのだと思います。こう



やって元気にまた集い合い楽しい時間を持つことがまた元気のもとになるのではと思います。準備をしてくださった皆さんありがとうございました!